平成 23 年度重点取組「輝きプロジェクト事業」

津市教育委員会

各校・園が培ってきた「良さ」を生かし、その「良さ」に磨きをかけ、

子どもたちが、保護者が、教職員が、そして、地域の人たちが

誇りに思う学校・園づくりをめざして！

子どもたちが自ら意欲的に学ぶ学校づくり

知りたい！

やってみたい！

できるようになりたい！

輝きプロジェクト事業

【輝き２階部分】「輝く学校づくり」推進事業（学校提案型元気づくり事業）

対象：幼稚園・小学校・中学校より公募（３３校＋７地区）

予算：各校園の提案を精査の上、決定　（委託金+予算配当）

- 地域連携（9 校）
- 環境教育（2 校）
- 人権教育（2 校）
- 幼児教育（7 地区）
- 校内研究充実（7 校）
- 生徒指導（1 校）
- 情報教育（2 校）
- 県外交流（1 校）
- キャリア教育（3 校）
- 図書館教育（3 校）
- 特別支援教育（1 校）

学校裁量型「特色ある学校づくり推進事業」積み上げ

【輝き１階部分】「特色ある学校づくり」推進事業（学校裁量型）

対象：全小中学校（小学校５７校・中学校２２校）

予算：１校あたり上限１２万円　委託金にて執行

＜事業を進めるにあたっての３条件＞

地域の特性を生かし、地域とともに取り組むこと

全職員の共通理解のもと、継続的に取り組むこと

取組の様子を、積極的に地域に情報発信すること

検証

学校経営品質の取組

学校評価活動

PDCA サイクル

南が丘小学校区は、戸数約3,500戸、人口約13,000人で6つの地区からなります。中でも南が丘地区は、人口の増加に伴い、平成4年4月に南が丘小学校が創立されました。

コミュニティ・スクールで深まる 地域 保護者との信頼関係

津市立南が丘小学校

所在地：三重県津市垂水 2538-1　　電話：059-229-2761
ＨＰアドレス：http://www.res-edu.jp/minamigaoka-e/
教職員数：４９名　学級数：３０学級　児童数：８９３名
指定日：平成１７年１２月２６日

コミュニティ・スクールの取組が生み出した「成果」

夏休み子ども教室

南が丘「ふれあいまつり」

地域の子どもを語る会

■開かれた学校づくりの推進

保護者、地域住民が学校運営に参画することは、学校を地域に開くこと。教職員と保護者、地域住民との関係が密になることで、円滑な連携が可能になり、さらには、大きなトラブルを未然に防ぐことにもつながった。

■地域のつながりが深まり、地域ぐるみで学校を支援

学校運営協議会の提言を受け、保護者や地域住民による学習支援ボランティアの充実や、地域行事の創出などが実現した。地域住民同士のつながりが深まる中、学校への支援も拡充してきた。

■教育活動の活性化

「夏休み子ども教室」や「地域の子どもを語る会」など、新しい教育活動が生まれ、教育活動が一層活性化してきた。

今後の課題と対策

■学校運営協議会の委員が代わっても、取組が継続されるよう、取組自体を定着させていくことが重要です。保護者の参画機会を増やしながら、その参画意識を一層高めていくことが必要です。

学校づくりは地域づくり

南が丘地域教育委員会(学校運営協議会)委員長　辻林　操

平成14年度～平成16年度の3年間、南が丘小学校は、文部科学省より「新しいタイプの学校運営の在り方に関する実践研究」の指定を受けました。当時、私は、保護者・地域住民の立場でこの研究に参画したのですが、指定当初、何度も議論したのが、「南が丘地域としての学校の在り方はどうあるべきか。」でした。その結果、“学校を核にした地域づくりを目指す”という方向性が見えてきました。つまり、学校運営に地域住民が参画することで人と人、地域と学校との出会いが生まれ、お互いに協力し合う中で連帯感が育まれるのではないか。そのことが、よりよい子どもたちの成長につながると考えたのです。この目的実現のために南が丘地域教育委員会(通称Me)を組織し、学校と「緊張感のある協働」の関係を持ちつつ、毎年出される学校自己評価の検討を重ね、学校運営に対して提言を行ってきました。また、夏休みに地域住民を講師に招いて「夏休み子ども教室」の開催や、日頃の学習を支援する学校支援ボランティアの組織化、子どもたちに“地域を思う心”を育み、地域の連帯を深める南が丘「ふれあいまつり」の開催などに取り組んでまいりました。これらの取組は、地域に根付くとともに、学校の活性化につながっていると確信しております。

平成22年度津市学校支援地域本部事業の取組

津市教育委員会

1　事業の目的

近年の少子高齢化、核家族化に加え、インターネットや携帯電話の普及や２４時間営業店舗の増加などの社会環境の変化は、生活様式や身近な人間関係に大きく影響し、家庭や地域の教育力の低下とともに、子どもの規範意識の低下や社会性の欠如、対人関係を築く能力の未熟さといった問題を生み出している。学校においては、「地域に開かれた学校づくり」をめざし、地域人材を学校教育に活用したり、地域を活かした学習活動を積極的に進めたりしているが、その一方で、教員一人一人の事務量が年々増加し、教員が本来大切にすべき子どもと向き合う時間の確保が十分にできないということも課題としてあげられる。

このような状況の中、子どもたちを取り巻く問題を解決するためには、学校、家庭、地域が一体となって、地域ぐるみで子どもを育てる体制を整える必要がある。学校と地域との組織的な連携体制を構築し、学校教育の様々な場面で地域の方が学校および教員を支援し、地域の人材を積極的に活用することで、教員が子どもと向き合う時間を確保し、子どもたちの確かな学力や豊かな心、健やかな身体を育んでいきたい。さらに、地域の方にとっても、経験や知識を子どもたちの健やかな育成のために活用していただくことは、ご自身の生きがいともなり、地域の絆づくりにもつながるものと考える。

2　平成22年度事業の内容及び実施内容

（１）実行委員会の開催

①平成22年5月27日

・学校支援地域本部事業の概要について
・津市学校支援地域本部実行委員会の会則について
・委員の紹介と委員長の選出
・津市学校支援地域本部実行委員会の取組について
・各学校支援地域本部の取組について

②平成23年2月17日

・今年度の津市実行委員会の取組および成果と課題について
・今年度の各学校支援地域本部の取組および成果と課題について
・今後に向けて

（２）学校支援ボランティアに係る研修会の開催

本年度は、学校支援地域本部事業を広く知ってもらうために、市内すべての幼・小・中学校区を対象にした地域コーディネーター及び学校支援ボランティアを養成するための研修会を開催した。

①日　時：平成22年10月1日（金）15:00～17:00
②場　所：津市美里文化センターホール
③内　容：(1)各学校支援地域本部からの実践報告
　　(2)講演会「地域の活力を学校支援に活かそう」
　　講師：生重幸恵さん（NPO法人ｽｸｰﾙ･ｱﾄﾞﾊﾞｲｽ･ﾈｯﾄﾜｰｸ理事長）
④参加者：市内幼小中の教職員、地域コーディネーター、学校支援ボランティア
　　約106名

【参加者からの感想】

・　津市における学校支援地域本部の活動の様子がよく分かった。生重さんの講演は、大変パワフルで内容も豊富であった。学校と地域の連携の在り方など、参考になるところが多かった。

・　地域の中には、学校のために、子どもたちのために頑張ろうと思ってくれている方がみえるということがよく分かりました。ついつい学校だけで抱えてしまいがちなので、もっと地域の方の協力をもらっていきたいと思います。

・　熱い気持ちの伝わってくる講演でした。「自分が生み育てたわけではない子どもを先生に見させて、学校にあれこれしろと言っている…」保護者としてうなずきながら聞きました。もっと学校に関わっていくべきだと感じました。

・　今年から学校支援ボランティアをしています。生重さんのような大きな人間愛も行動力、話術なども持ち合わせていませんが、ボランティア活動をする中で、子どもたちが心地よい環境、学習しやすい環境を整えることに喜びを感じ、もっと何か私にもできないかと考えています。

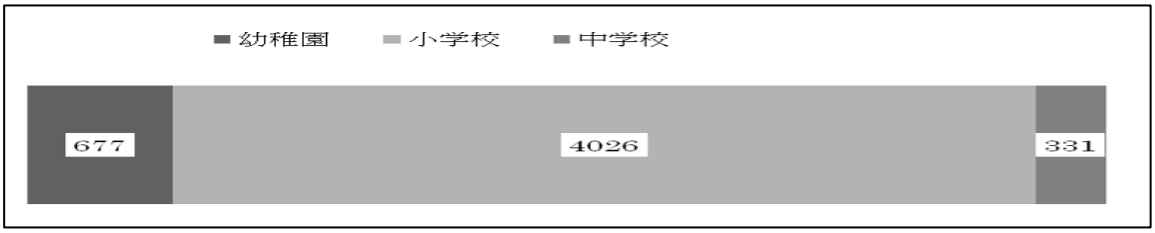
研修会の様子より

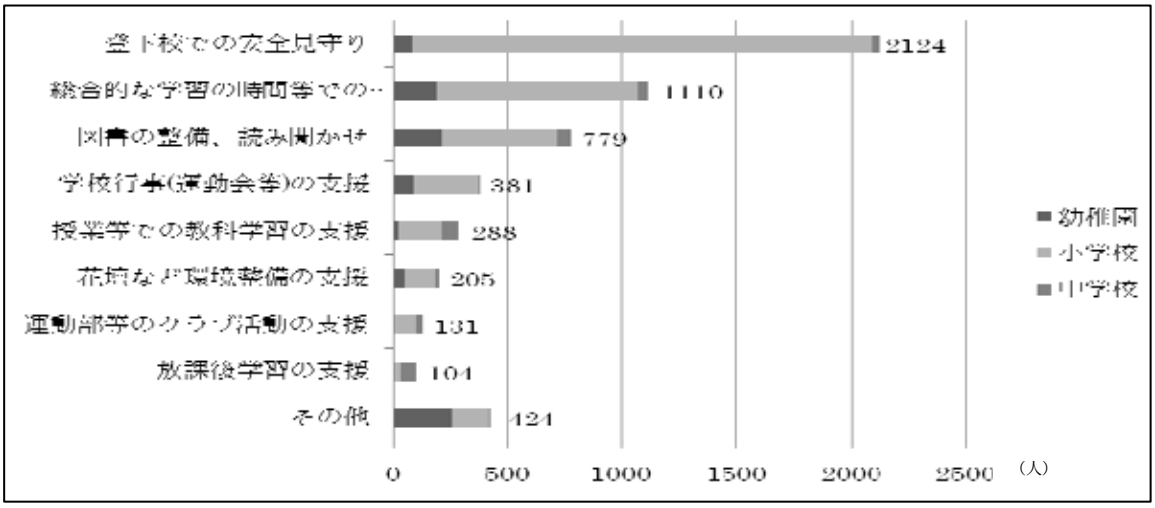
（３）学校支援ボランティアに関するアンケートの実施

市内の学校支援ボランティアの活動状況等を把握するために、全ての幼稚園・小中学校対象にアンケートを実施した。

アンケート結果より、市内で約 5,000 人の学校支援ボランティアが様々な分野で活動されている状況や、多くの学校が「地域の方々と交流する機会が増え、学校と地域の連携が深まった」「子どもたちの学習効果が高まった」等の成果、「学習支援ボランティアとの連絡・調整をする時間がない」「推進するための経費がかかる」等の課題等について把握することができた。

（例：学校支援ボランティアの人数／活動別）





（４）事業成果報告書の作成

各学校支援地域本部及び津市学校支援地域本部実行委員会の具体的な取組や今年度までの成果と課題について報告書にまとめ、市内の全小中学校に配布し、事業成果の普及を図る。

３　平成 22 年度学校支援地域本部の活動

（１）高野尾小学校支援地域本部の活動

①組織について

学校支援本部には、安全・環境部門と学習プログラム部門の２つがあり、それぞれの部門には５つずつの部を設定し、５つの柱にそって各部の代表者を中心に活動した。

ア．学校支援本部総会の開催（5 月 28 日）
イ．学校支援本部事務局会議の開催（年２回）
ウ．学校支援本部代表者会の開催（毎月第３金曜日を中心に）
エ．学校支援本部ボランティアの募集
オ．教育活動への支援
カ．高野尾小学校キャリア教育研究実践発表会（11 月 4 日）のサポート
キ．学校支援本部だよりの発行

＜組織体制図＞

安全・環境部門	交通指導部	児童の安全な登校指導など
	高野尾っ子見守り隊	安全な登下校の見守りなど
	図書館部	図書館の整備、本の修理など
	学校環境整備部	花壇づくり、除草作業など
	地域の美化部	通学路のクリーン活動など
学習プログラム部門	遊び・ものづくり部	工作クラブ指導、昔の遊びの紹介など
	野菜･米･植木づくり部	栽培活動の指導・サポートなど
	仕事・起業部	地域の仕事の学習・起業教育の支援など
	学習支援部	「学びの時間」の学習支援など
	料理・地域の食部	郷土の食の学習や調理実習の支援など

②具体的な取組について（５つの柱に基づいた活動支援）

ア.「基礎・基本の定着を図る」活動への支援

（例）「学びの時間」の学習支援

毎週木曜日の５限目に低学年、６限目に高学年が、算数の学習の一つとして、算数のプリントなどを使ってこれまで学習した問題に取り組んでいる。この時間に学習ボランティア（学習支援部）が、問題の答え合わせをしたり、つまずいているところがあれば、アドバイスを行ったりした。その都度、支援してもらえるので、子どもたちは意欲的に学習に取り組むことができた。

イ.「体験から学ばせる」取組への支援

（例）「会社をつくろう」の学習活動への支援

５・６年生が総合的な学習の時間に「会社をつくろう」に取り組んだ。「会社をつくろう」とは、「子どもたち数人が一つのグループとなり、自分たちで会社をつくり、商品を開発・製作し、その商品を販売する」学習である。子どもたちは、ガラスのネックレス、焼き物（皿）、リース（わら細工）を作り、販売することになった。子どもたちに、ボランティアの人たちがそれらの作り方を教えた。

一つの会社では、植木をクリスマス風に飾って販売しようとした。そして、自分たちのイメージしている植木を仕入れようとした。しかし、「地域の人たちはどういう植木が欲しいと思っているかを調べることが大切だよ」とアドバイスを行った。子どもたちはそのアドバイスに応え、幼稚園児を迎えにくる保護者の人や、近所の人に聞き取り調査を行い、その結果をもとに、仕入れる商品を決定していった。

また、津市内の百貨店で外商の仕事をしておられる地域の方に学校に来ていただき、商品を売るときの心得や接客マナーについて教えていただいた。子どもたちにとって、商品を作り、それを売るという仕事の厳しさを改めて知る機会となった。

ウ.「児童を事件・事故から守る」支援

この活動は交通指導部や高野尾っ子見守り隊を中心に取り組んだ。交通指導部のボランティアが毎朝、要所に立って、子どもたちが安全に登校できるように見守った。６月６日には、見守り隊の人たちの紹介式を行った。不審者に関する情報が学校からあった時に、臨機応変に子どもたちの下校を見守った。

今年度は、校区探検や、近隣店舗への社会見学の引率を行い、子どもたちが安全に学習できるようにサポートした。

エ.「学習環境を整える」取組への支援

子どもたちが運動場で遊んだり、運動したりしやすいように、５～８月に除草作業を学校環境整備部で行った。また、今年度は学校環境整備部と地域の美化部の合同で学校の敷地内に花壇を作った。８月中頃にはきれいにサルビアの花が咲き誇り、学校の美化運動のサポートを担うことができた。

オ.「郷土を知り、大切にする心を育てる」取組への支援

（例１）郷土料理（いばらもちづくり）

「料理・地域の食」部のボランティアが、家庭クラブの時間にいばらもちづくりの指導を行った。いばらの葉は、高野尾の里で摘んできたもので、子どもたちは、手作りの季節のお菓子を美味しそうにほおばっていた。

子どもたちは普段はなかなかできない地域に伝わる和菓子づくりを体験することができた。

(例 2) 夏季休業中のフィールドワーク

学校支援本部の企画により、６月６日に外部講師を招き、高野尾地区の自然と歴史に関する自由研究に関する学習会を行った。そして、８月２日に、自然観察フィールドワークを行った。校区内を歩き、講師の方にいろいろな種類の植物の名前や特徴を教えていただいた。また、実際に手でさわってみたりしながら、観察した。子どもたちは、自分たちが住んでいる地域にはたくさんの植物が生育していることを改めて知る機会となった。

また、８月３日には、歴史探検フィールドワークを行った。地域の史跡等を巡り、そこに伝わる逸話や歴史的な出来事を講師の方に教えていただいた。子どもたちは、自分たちの住んでいる地域の知られざる歴史に触れることができた。

（例 3）もちつき集会

「高野尾地区の新しい祭」として、学校支援本部と小学校、高野尾地区社会福祉協議会の共催で、12 月 10 日に「もちつき集会」を開催し、児童や園児も含め、200 名の参加があった。事前準備では、料理・地域の食部が中心となり、６年生の子どもたちに「米研ぎ」の指導を行った。また、前日には４～６年生の子どもたちとともに、会場準備を行った。当日は、杵の持ち方やお餅のつき方を子どもたちに教えた。つきたてのお餅を頬張る子どもたちからは、「わー、おいしい」「つきたては、柔らかくて最高」といった声が聞かれ、参加者とともに楽しい会食のひとときが過ごせた。

自治会や老人会の組織にも助けていただきながら、まさに地域と学校が一体となった「高野尾地区のもちつき集会」となった。

（２）一身田中学校支援地域本部（サポーターいっちゅう）の活動

①組織について

本年度も学校と地域を円滑につなぐために、地域コーディネーター６名で事務局を設置し、各事業を担当する運営委員２３名で組織した。

ア．事業担当者を決め、各事業を推進させるための事業計画の立案・実践・検証を行う。

イ．一身田校区への「サポーターいっちゅう」の実施にかかる普及啓発、広報活動

・「サポーターいっちゅう」の趣旨と活動内容について、リーフレット等の作成及びホームページで地域全体に周知を図る。

ウ．学校支援ボランティア募集に係る広報活動

・「サポーターいっちゅう」への登録を促進させるため、広報活動を実施する。

エ．サポーター登録簿の作成

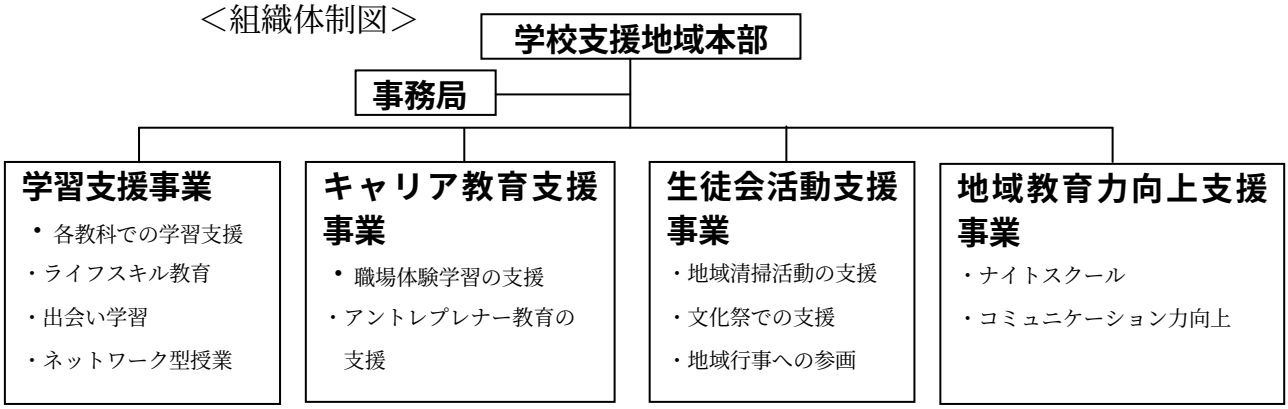
・「サポーターいっちゅう」の登録名簿を学校支援協議会において作成する。（サポーターの支援領域や活動時間帯の把握等）

オ．学校支援地域事業の報告会の開催

・学校を支援した教育実践の報告会「一身田中学校教育実践発表会」を開催し、学校と地域をつなぐ学校支援地域事業の成果と課題を検証する。

・平成２３年度の活動計画

＜組織体制図＞



②具体的な取組について

ア．学習支援事業

地域の専門的な知識や技能を備えた方々や校区内にある大学との連携、特に三重大学教育学部の「「大学教育・学生支援推進事業（隣接学校園との連携を核とした教育モデル）」を活用し、教科学習の基礎的・基本的な「知識・理解・技能」の習得に加え、わかることの楽しさや課題や問題を解決していくプロセスを獲得する取組を通して達成感を感じ取れるように支援を行った。

（例）体育科での学習支援

平成 20 年度から器械プログラムである「ラート」を三重大学教育学部体育科と連携して導入した。「ラート」は、個人個人のスキルの上達以外に、生徒同士の助け合いや仲間作りといった内面的な成長が求められるため、互いにコミュニケーションをとりながら一つのものを完成させていくことの大切さを実感させることができた。特に授業の最終である演技披露会に向けて、生徒が主体的に練習を重ねるなど、より自己表現・グループ表現を高めるために意欲的な取組がみられた。

イ．キャリア教育支援事業

（例）職場体験学習「自分発見！１４歳のジョブチャレンジ」

毎年２年生で行っている「自分発見！14 歳のジョブチャレンジ」は、第１学年で学習した「会社をつくろう」で獲得した基礎的な力をさらに高めるために、「職業」「勤労」について社会との関係性を持ちながら学習を展開するものである。

体験職種別に８人のゲスト（専門家）を招き、お客さんや利用者の立場で職業について考える授業を行った。授業ではサービスを提供して報酬をいただくという立場で職業を考え、自分たちで想像した、提供しようとしているサービスの内容や仕事をする上で必要な能力、心構えについて、実際はどうなのかをゲストの方からリアルタイムでアドバイスされるので、職場体験に臨む課題や目標を設定することができた。

【スーパーぜにや　会長】　【平治せんべい　副会長】　【ZTV　キャスター】

また、9 月 14 日から３日間、校区を中心に市内 68 事業所のご協力のもと職場体験学習を行った。職業の社会的な意義や役割、仕事をする上で必要な自主性やコミュニケーション能力、働く人々の責任感や使命感などを学び、職業に関する新発見や感動を体験した。

ウ．生徒会活動支援事業

（例）ボランティア活動支援　ピカピカ大作戦

本年度からは、地域自治会と連携を図り、地域が主催する「栗真海岸清掃活動」「白塚海岸清掃活動」に生徒会が呼びかけ、部活単位で参加するようにした。学校が独自で企画し活動するより、地域の一員として地域行事に参加することで、地域を大切にする心が育まれ、地域の方々とのコミュニケーションや地域課題を共有することができた。

エ．地域教育力向上支援事業

（例）ナイトスクール

平成 20 年度より、２会場でそれぞれ週２日午後７時から９時まで数学と英語の補充学習及び発展的な学習を行っている。「ナイトスクール」は、参加生徒の基礎学力の定着と論理的思考力を高めるために、学習内容を「わかる」ことが実感でき、「考えようと努力する」態度を養うことを目指して開校している。

指導者スタッフは、教員免許状を所有している専門家で、一身田中学校の生徒のやる気に応えるために真剣に指導され、平成 22 年度は 63 名の参加者となり、「ナイトスクール」の授業に期待を寄せている。

このナイトスクールに参加している生徒のほとんどが、学習に対する興味が高まり、学校での定期テストの結果も向上した生徒も多くいる。そして、ナイトスクールをきっかけに、学習課題を克服することで新たな課題に挑戦しようとする態度が育まれようとしている。

オ．その他の支援事業（教育環境整備事業、購買事業）

生徒会からの要望を受けて、本年度から２つの事業を展開した。一つは、生徒会から入学式や卒業式の思い出に残る学校風景として、正門付近へのサクラ等の植樹の要望があったので、学校環境の景観整備として、正門付近にサクラの植樹を行った。

また、昨年度の生徒会から「安全な飲料水を確保してほしい」という要望に加えて、夏場の部活等での飲料不足、地域のコンビニを利用することの安全面、生

徒指導面等の問題を解決するために、購買事業の一環として、自動販売機を設置することにした。設置・運営については学校支援地域本部が担い、収益は学校環境の整備費やナイトスクールの運営費に活用する。これは、金融教育の観点からも、子どもたちに自販機を設置することによる効果などを学ぶ機会を提供するものである。みどりの募金活動、ペットボトルキャップ募金活動などの社会貢献活動の仕組みも学ぶことができ、キャリア教育にもつながる試みとなることを期待している。

４　３年間の事業実施から見えてきたこと

（１）これまでの成果

①地域教育力を活かす

地域には、様々な専門的知識や技能・経験等を持った方々がおられる。この身近な方々との出会いから、学び、驚きと感動を味わうことで、子どもたちは学ぶことに興味・関心を持ち、さらに知りたい、学びたいという意欲を持つことができた。地域にある企業や関係諸機関、自治会組織等を大いに活用することで、教員の負担軽減だけではなく、子どもたちへ魅力ある教育活動を展開することができる。

②地域を大切にする心を育む

地域住民による登下校の見守りや教育活動等の支援を通して、子どもたちは地域に守られている、大切にされているという意識を持つことができた。また、地域での清掃活動や祭り等に参加したり、ともに地域での行事を運営したりすることで、地域の一員としての自覚を持ち、さらに自分たちの住む地域を大切にしたい心を持つことができた。

③学校を拠点として地域を活性化させる

地域住民が学校支援ボランティアとして学校に訪れることで、学校と地域だけでなく、地域同士のコミュニケーションの機会が増えた。学校を拠点とした活動が広がることで、地域・保護者・学校とのつながりも深まり、「地域の子どもは地域で育てる」という気運も高まりつつある。また、２つの学校支援地域本部の取組を広く広めることにより、他校・他地域でも様々な教育活動における学校支援ボランティアが年々増加している。

（２）今後の課題

①各地域本部の充実

今後は、各地域本部においてより計画的・発展的に取組を推進していけるよう学校と地域との連携を強化していかなければならない。そのために、連絡調整の時間や経費の確保、学校支援ボランティア数の拡大等についても、国・県や教育諸機関等との連携を密にしながら、継続するとともに、より活動内容を充実していけるよう新たな取組を進めたい。

②学校・家庭・地域が一体となった学校づくりの拡充

市内の全ての幼稚園・小中学校では、地域と連携した特色ある活動を展開している。今後は、「学校支援地域本部事業」や「コミュニティ・スクール」をはじめとするこれまでの取組の成果をもとに、学校と地域の組織的な連携の仕組みづくりを拡げていきたい。